



富士山の豊かな恵み！ 柿田川自然観察会



柿田川の湧水

柿田川は富士山に降った雨や雪が地中に染み込み、長い年月を経て、地表に湧き出し、清らかな湧水として私たちの生活を潤しています。柿田川はこの代表として、富士山の自然の恵みを存分に受けており、「名水百選」にも選ばれています。

今年度の柿田川自然観察会は、例年同様、公益財団法人柿田川みどりのトラスト及び柿田川自然観察の会を案内役として迎え、新型コロナウイルス対策を十分にしつつ、令和2年8月2日(日)に実施しました。

観察会は家族を対象に公募し、30組102名の方々に御参加いただきました。最初に柿田川みどりのトラストの漆畑会長(ふじさんネットワーク副会長から柿田川の自然や特徴について説明があった後、同会会員から、ミシマバイカモ等の貴重な植物は観察だけで採取せず、他の動物についても、捕まえたら最後は必ず放流して欲しいというお願いがありました。



観察会の様子

柿田川に入って観察会が開始されると、参加者はタモやバケツ等を使用し、ウツセミカジカやモクスガニ、ヌマエビなど多種多様な動植物を捕まえて、それらに顔を寄せ観察をしていました。例年は観察会後半に、柿田川の動植物を水槽に集めて観察する時間がありました。今回は密集を避けるため、行いませんでした。

暑い日差しの照りつける日でしたが、年間を通して水温が15℃程度で変化の少ない柿田川で気持ちよく観察会を実施することができ、参加された皆様にとって、夏の思い出になったのではないのでしょうか。



観察会の様子(左上)、参加者が捕まえたモクスガニ(左下)、ミシマバイカモ(右)

NEWS × COLU



富士山の草原を守ろう！ 草刈りで維持管理



草刈り前

例年行っている「富士山草原性植生保全活動体験会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、残念ながら今年度は開催を見送ることになりました。しかし、富士山麓の貴重な草原にいる動植物を守るために、静岡県が委託する草刈りによる維持管理作業は、例年どおり実施されています。

維持管理作業を受託している特定非営利活動法人富士山自然の森づくりは、ふじさんネットワークの元副会長である仁藤氏が理事長を務める団体であり、富士山周辺の森づくりや環境保全活動等に精通した団体です。



外来種キクイモ(左上)、参加した常葉大学の学生(左下) 草刈り方法の指導(右上)、作業状況(右下)

昨年度のような大規模な草刈り体験会には実施できませんが、この維持管理作業でも少人数のボランティアを募集し、都合の合うときに作業をお手伝いしていただいております。今年度は暑い夏を避け、9月からボランティアの参加を始め、これまでに数回実施することができました。今年度は、常葉大学の学生がボランティアとして参加していただき、その若い力を富士山の環境保全に役立てていただきました。

広大な草原ですので密になることもなく、富士山麓の貴重な草原性植生について学び、動植物に触れ、その自然を自らが保全しているという実感を得ることができ、参加者からは好評をいただきました。今後も、12月頃までは維持管理作業を続けていきます。



草刈り後